

第71回石川県へき地複式教育研究大会奥能登大会参加者からの質問

Q. 11月のこの姿になるまでの過程はどうだったのか。

A (松井：1・2年担任)

- ・1・2年生が自分たちで進めるというのは、想像以上に大変だった。新しいことを学ぶ時は、複式の授業にはならなかった。パターン化し、繰り返しのできる単元において複式をしていった。また、本時のやることをホワイトボードに明確に示した。それを繰り返した。

A (小路：3・4年担任)

- ・今年の3年生は、複式授業が初めてだったため、4年生が自分たちで進めている姿を見てもらった。本時のやるとこを5・6年生のように小さいホワイトボードで示していたが、具体的に書けなかつたので、大きいホワイトボードにし、話し合いの視点を設けた。3年生は、話し合うときの反応の仕方や話型を印刷し、それを見ながら考動タイムに取り組ませた。困っている場面があったらその都度「どうしたらよかったです」「学習リーダーやグループでの声かけや進め方はどうだったのか」を繰り返し問い合わせた。

A (松中：5・6年担任)

- ・現在もまだ課題としているが、声が小さかった。考動タイムの中でも自分の考えをアウトプットする習慣を身に付けるまでに時間がかかった。まだ、進んでアウトプットできずに聞くだけになってしまふ児童もいるので今後も継続し、訓練していく。

Q. 1年生の入門期はどのような授業だったのか。

A (松井：1・2年担任)

- ・1学期は、算数遊びを多く取り入れ授業した。学習困難な児童も多く、不登校傾向児童も多いため、学校を楽しんでもらうことが先決だった。大事なところをおさえ、ゲームの指示を出し、2年生を見ていた。本格的にはいったのはたし算から。しかし、複式は当初は成り立たなかつた。無理せず、できる単元や授業で複式をした。全ての単元で複式をするのは無理だった。

Q. 学習リーダーを育てていく中の指導や声かけなど教えてください。

A (松井：1・2年担任)

- ・低学年は計時や、ホワイトボードに示した進行のみ。リーダーが、何をするか分からなくなったら、周りが教えてあげるとよいと伝えた。

A (小路：3・4年担任)

- ・よい言葉かけや黒板の書き込みなどを繰り返しほめたり、みんなに広げたりした。1・2年生と同様、リーダーが困っていたら回りが声かけすることも徹底した。

A (松中：5・6年担任)

- ・児童に委ねながら、「自分たちで解決していく」という意識を常にもたせる。考動タイムのよい姿や、学習リーダーのよい進め方があったときは、具体的にフィードバックする。よいこともよくないこともその時間のうちにフィードバックすることが大切だと考える。

Q. 学習リーダーとの打合せはどのように行っているのか。

A (松井：1・2年担任)

- ・低学年はなし。

A (小路：3・4年担任)

- ・なし。

A (松中：5・6年担任)

- ・毎回行うわけではないが、進め方が難しい時間は事前に休み時間等を5分程度使って進め方を確認する。主に前時までに学習したことと、進め方の確認。

Q. 今後算数以外の授業でも考動タイムや学習リーダーの取組をどのように広げていくのか。

A (角間：校長)

- ・算数以外の授業の様子を見ていると、考動タイムについては他教科でも取り入れている。毎時間ではなくても、考動タイムの時間を設定すると、児童はより主体的に学習活動に取り組んでいるようだ。具体については、担任や教科担任の回答を参考にしてください。学習リーダーについては、学級・学年、教科によって違いがあるよう思うが、話し合い活動が中心になるような学習だと有効だと思う。これも、具体については、担任や教科担任の回答を参考にしてください。

A (松井：1・2年担任)

- ・2学期は国語などでも2年生で学習リーダー取り組んでいた。物語文の叙述に対して、誰かが意見を言ったら、「同じです。」「つけたします。」「ほかにあります。」と言い、自分たちで進めさせた。算数だけではなく、その他の教科でも取り組まないと、話し合いの素地がつかなかつた。

A (小路：3・4年担任)

- ・国語や社会、道徳などでも考動タイムとして、話し合い活動をしている。

A (松中：5・6年担任)

- ・他教科でも考動タイムを取り入れている。しかし、他教科ではまだ、学習リーダーの型をしっかり浸透させることはできていないので、他教科でも学習リーダーを取り入れることで、主体的な学びがより加速すると考える。

A (弓村：教頭)

- ・児童が主体的に活動する時間を多くするために、委ねる時間を増やしていくこと大事だと思います。ただし、教科や単元によって教師が教える場面も必要なので、教材研究を進める中で児童にどこまで委ねるか、何を委ねるか明確にすることが大事だと思います。

A (大隅：級外)

- ・単元によって、また、授業の流れがパターン化していると、どの教科でも「考動タイム」として、一人、グループとして活動できる。特に、前年度から「音楽」が複式で行っていたので、クラスルームに学習内容を知らせることで、学習リーダーが授業を進めてくれた。同時間接として、どちらの授業にも教師が入ることができた。

Q. どうすれば学習リーダーを中心に進められる学級・児童が育成できるのか。

A (松井：1・2年担任)

- ・低学年は話型がなければ、話がずれたり、話が長くなったりして結局時間の無駄になってしまった。また、朝学習や朝の会では、1学期から話し合う時間を意図的にとった。慣れないうちは、車座でフランクに話し合う場の設定をした。また、お題をサイコロで決めたり、面白い話題を提示したりした。大切にしたのは、必ず発表者がしゃべって終わるのではなく、聞く人が質問・感想を伝えることで話が盛り上がることを何度も確認した。

A (小路：3・4年担任)

- ・スピーチタイムを設け、人の前で大きな声で話す練習をした。言ったことをばかにしない。互いを認め合うような活動をした。自分も相手を大切にする雰囲気を作ることを意識した。

A (松中：5・6年担任)

- ・ある程度の授業の型は必要だと思う。基本的な型があることで、学習の見通しがたつ。今後、算数科以外の授業でも複式授業を行わなければならなくなると、算数科以外の型の検討も必要だと思う。

A (弓村：教頭)

- ・授業（考動タイム）は教えてもらう時間ではなく自分たちで答えにたどり着けるように考える時間だという意識を持ち、だから分からなくて当たり前、間違えても良い、という雰囲気をつくっていくことが大切だと思います。そのために、対話は欠かせない要素で、考えを発表するだけなく、質問して話を深めていくことが大切です。これは算数科だけでなく、単式で行う他教科の授業で意識づけしていくなど教師のコーディネートは必要だと思います。

A (大隅：級外)

- ・まずは、クラスの雰囲気である。「全員で授業を行おう。」「友達の良いところを学ぼう。」「間違えても大丈夫。」という学級の土台が必要であると考える。学習リーダーを育てるのは、低学年からの積み重ねである。そのため、単式の授業で学習リーダーの心得や授業の進め方を児童と共に理解することが必要であると考える。(今年度のように1, 2年生が算数を複式で行なうことには、非常に大変だったと思う。) 単式で行えない時にどうするか、複式の際に片方の学年を自習体制のようにし、学習リーダーを中心の情業の仕方を鍛えるとよいと思う。

※まだまだ、研究も試行錯誤中です。質問者の意図と合っていない回答もあるかも知れませんが、ご了承ください。